

土浦平和の会

ニュースNO・68 1998年11月

発行 土浦平和の会
事務局 土浦市神立町2664-2
TEL 31-9122



信濃路の旅 NO1

愉快・有意義・感謝の旅を終えて

小澤則光 '98.10.31

このところ地上では、天を恐れぬ者や天に唾する者が横行し、弱い者いじめも頂点に達して、お天道様はすっかりご機嫌を損ねておられました。しかし、常日頃の行いが清く正しく、そして美しい人々の意義ある平和の旅と聞いて、お目様もこの旅の時だけはにこやかにお出ましになってくれました。その上に世話役の方々のまことに周到でかゆいところに手が届く、行き届いた準備と配慮が相まって、今回も実に楽しく、しかも意義深く愉快な旅となりました。本紙をおかりして心からお礼を申し上げます。私にとって「松代」と「ちひろ」は2回目でしたが、前回よりもずっと落ち着いて見ることができました。それぞれに一層深い印象を受けた気がします。

ここでは、みなさまにとっては、はなはだ押しつけがましく、自分では少し図々しいと思いますが、自己流プラス自己満足的な似和歌(?)によって私の心に残った印象を表現してみました。どうかご笑納ください。

(無言館にて)

筆捨てて 銃持ち人を殺せよと 迫りし時代の酷さ身にしむ
(日高安典の絵を前に)

あと5分 もう10分だけと描く背に 敵を討てとの雄叫び響く
絵筆捨て 敵を殺せと叫ぶ声 背に受け描く裸身の恋人

(ちひろ美術館にて)

なつかしき 「赤い風船」手に取れば 幼き頃のわが子しのばる
くれないの 秋の葉陰のおさなごは 瞳つぶらに我を見つめる

(松代大本営跡にて) 松代のものは以前に作ったものも入れました。

過酷なる 強制労働物語る 岩に食い込み残りしロッド
戦争の 狂気の果ての地下壕に 若人一人平和語りぬ
祖父の世の いくさの罪を一身に 背負うがごとく地下壕に立つ
彼の国の 故郷の町か岩肌に かすかに見ゆる黒き文字



「平和の旅」に参加して

平和の会会員、ポッポの会会員
飯村 和子



10月25日、26日の2日間「平和の旅」に参加することができ、大変感動することが多く、友人との交流もざっくばらんな楽しみがあって感謝しております。

初日は長野県上田市の「無言館」(戦没画学生慰霊記念館)にて、太平洋戦争敗戦より五十年以上経ち、忘れ去られていた、戦死した若き画学生たちの絵が 探し出され甦らされて見学することができたことなどに思い新たに、戦争のむなしさと画のすばらしさに感動しました。

つぎに松川村の「安曇野ちひろ美術館」に寄り、なつかしい童画、絵本の原画、世界の絵本画家の展示作品など心あたまる思いにひたり、広々とした安曇野の公園の自然のすばらしさを感じました。核廃絶の署名アピールもあり、終戦後のいま、まだ世界の中のどこかで戦争が続く悲しさ、怒りを思います。

翌26日松代の大本営跡を見学しました。終戦の前年の11月から終戦まで、7000人もの朝鮮人と150

行事ごよみ

- 10・18 牛久母親大会土浦・阿見基地視察
栃木革新懇土浦・阿見基地視察
- 10・20 平和の会理事会(1中地区公民館)
- 10・24 県平和委理事会(石岡営農センター)
- 10・25 平和の旅(無言館・ちひろ館)
、26 (松代大本営跡)
- 11・17 平和の会理事会(1中地区公)

0人もの日本人が激しい労働にたずさわったという。天皇の「ご座所」、大本営、政府機関、NHKなどの戦争遂行の中核機関を移す予定であったという。見学しながら数々の疑問が浮かんできました。国体護持とは何であったのか。「ご座所」の建物の堅固さ、材木の立派さは何故なのか、などなど。戦後半世紀たち、篠ノ井旭高校の生徒たちの郷土研究がきっかけで地下壕の調査が始まり、松代大本営跡の保存、平和記念館建設の運動が始まっています。戦争の悲惨さと平和の尊さを心に刻み大勢の人たちが見学し合うことを願っております。